

組込みシステム産業の振興による 関西のものづくり復権

設立3年めを迎える組込みシステム産業振興機構。これまでの活動の柱である「教育」「開発支援」「企画・広報」に加え、受発注機会の拡大と新規ビジネス開拓に向けた新たな事業の柱として「ビジネス支援」の強化に注力する。産学官の連携、振興機構会員による活発な活動を展開することで、関西の組込みシステム産業、ひいては日本の産業活性化に寄与していく。

組込みシステムとは、特定の機能を実現するために家電製品や機械などに組み込まれるコンピューターシステム。家庭用機器、産業用機器、医療用機器など電子制御を必要とするほとんどの製品に用いられており、その重要性は年々高まっている。

当会では、組込みシステムに関する高いポテンシャルを有している関西を、組込みシステム産業の一大集積地とすることを目的に、2007年8月に「組込みソフト産業推進会議」を立ち上げ、3年間にわたり議論を重ねてきた。その活動をふまえ、2010年6月、産学官が一堂に会し、業界が抱える課題の解決をはかる具体的な事業として深化・発展させる場とすることをめざして組込みシステム産業振興機構(以下、振興機構)を設立し、「教育」「開発支援」「企画・広報」を活動の柱として取り組みを行ってきた。

2011年度の主な活動

振興機構では、2011年度を「関西を組込みシステム産業の一大集積地に！」という目標の実現に向け、振興機構の運営を軌道に乗せる重要な年度と位置づけた。「基盤事業の確立」「新たなサービスの創出」の2つを目標に、「教育事業」の拡充、「開発支援事業」の中核事業化、「企

画・広報事業」の充実など、活発な活動を展開した。

教育事業

システムアーキテクトの育成を目的とした「組込み適塾」や企業内の指導者を育成する「指導者育成研修」に加え、新たな教育プログラムとして、実機を用いた演習形式で研修を行う「組込みシステム実装演習」などを開催し、技術者60名を輩出した。「中小企業1社では実施困難なカリキュラム」として受講生から高い評価を得た。



組込み適塾

また、企業と技術者がキャリアアップの目標を共有し、人材育成計画を立案することに対する支援を目的に、キャリアプランの体系化を検討した。情報処理推進機構(IPA)のソフトウェア・エンジニアリング・センター(IPA/SEC)の組込みスキル標準(ETSS)をもとに、現場のニーズをふまえ、検証系キャリアとして「テストアーキテクト(テスト全体の構造の設計や詳細設計の指針・原則を決定する技術者)」の概念を新たに盛り込んだ「組込み技

術者向けキャリアガイド」を作成・発刊した。

開発支援事業

開発の品質向上や受発注機会の拡大を支援するサービス・施策を展開した。品質向上への取り組みとしては、産業技術総合研究所関西センターと連携してソフトウェアの不具合をチェックする「検証サービス」を提供。サービスを利用した7企業・団体でのソフトウェアの不具合の解決・品質向上に貢献した。

受発注機会の拡大としては、中堅・中小企業が、発注企業に直接自社の技術・製品をアピールする機会が少ないことから、発注企業に出向いて展示会を行う「出張展示会」(第1回:シャープ(2011年8月10日)、第2回:パナソニック(2012年2月14日))を開催した。計40企業・団体が出展し、発注企業の社員約700名が来場、後日のアポイントメントは約100件にのぼるなど、新たな受発注の拡大が期待される。第2回出張展示会には、震災復興支援や地域連携をねらい、東北企業7社を招いた。

また、中堅・中小企業の海外進出をサポートするため、将来的に経済発展が期待できるベトナムに、日越経済討論会(2011年11月開催。主催:関経連ほか)に合わせて産学による視察団を派遣。ベトナム国内の日系企業の状況、IT企業の品質や

日系企業に対する考え方、大学における教育や就職、学生の就職意識等の実態を調査した。さらに、ベトナム企業との具体的な海外連携支援の第一歩として、ベトナムソフトウェアIT協会との包括的協定を締結した。



企業出張展示会

企画広報事業

関西の組込み企業約300社と受注企業約50社のニーズ調査および産業動向の変化をふまえ、関西を中心とする組込みシステム産業のめざすべき姿を検討し、振興機構の中期活動方針を作成した(図)。

2012年2月3日には、地域連携施策の一環として、近畿経済産業局、産業技術総合研究所、IPA/SEC、関西情報センター、組込みシステム

技術協会、関経連と共催で、他の地域に先駆けて「第1回全国組込み産業フォーラム」を関西で開催した。全国各地域から組込みシステム関連の11団体、そして全国の地方経済産業局が集結し、意見交換を行うことで、各地域との連携を深めた。

広報事業としては、会員および現場の技術者が組込みシステム開発に活用できる技術情報や最新のトレンドなどを勉強し、交流ができる場として組込みビジネス交流サロン・技術者交流サロンを計10回開催、約400名が参加した。

2012年度および今後の活動

2012年5月31日に振興機構の第3回総会を開催した。IPAの仲田理事が「安全安心を支えるソフトウェアに対するIPAの取り組み」と題して講演した。

2012年度は、2007~09年度のステップ1(組込みソフト産業推進会議での活動)、2010~12年度のステッ

プ2(振興機構設立・活動開始)に次ぐ2013~15年度のステップ3に向け、サービスをより一層進化・発展させるとともに、これまでの活動を総括する年度であると位置づけている。中期活動方針に基づき、基盤事業である「教育」「開発支援」「企画・広報」の活動やサービスの拡充に取り組むとともに、会員ニーズの高い「ビジネス支援」の強化に注力する。さらに、会員同士が課題を共有し、ビジネス連携をはかるための「研究会」を設置し、振興機構のさらなる活性化をめざす。

震災復興支援の活動としては、宮城県、仙台市、産業技術総合研究所東北センターと連携し、6月29日から、仙台にて「組込み適塾」の遠隔講義を提供。のべ50名以上が受講している。そのほか、今年8月と来年2月に開催を予定している企業出張展示会に東北の組込みシステム関連企業を招待したり、関西と東北の企業の技術交流を実施することなどを検討している。

ステップ3については「ステップ3検討部会」を立ち上げ、これまでの活動を評価するとともに、組込みシステム産業の動向を見据え、振興機構が2013年度以降めざすべき方向性とそれを実現するための事業や組織運営体制などを検討する。

振興機構は、今後も大学、研究機関、関経連、異業種団体などとの連携および会員による活発な活動により、会員にメリットのあるサービス、とりわけ発注側と受注側双方に実効あるサービスを生み出すことで、関西の組込みシステム産業、ひいては日本の産業活性化に寄与していく。

(産業部 深井晃)

〈図 振興機構のめざすべき方向性のロードマップ〉

